

# 生成AIの潮流と 教育での利活用の最前線

2025/12/2

一般社団法人 Generative AI Japan

株式会社 ベネッセコーポレーション

國吉啓介

# 自己紹介

## 一般社団法人 Generative AI Japan 業務執行理事 兼 事務局長 株式会社 ベネッセコーポレーション データソリューション部 部長 國吉 啓介(くによし けいすけ)



ベネッセグループにおけるデータ利活用によるDX推進に従事。生成AIを社会実装し、価値につなげるためには、多くの企業・団体と共創する枠組みが必要と感じ、一般社団法人 Generative AI Japanの設立に参画。博士(経営学)。データやAIを価値につなげるための方法論づくりや人材育成活動にも従事。

### 登壇

### 記事・論文

### その他の所属等



- ・一般社団法人 データマネジメント協会 日本支部 理事
- ・NEDO技術委員
- ・滋賀大学データサイエンス学部 インダストリアルアドバイザー

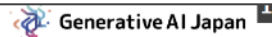
## 1社では解決できない課題を共創で解決

生成AI活用をさらに進めていくためには  
教育、キャリア、協業・共創、ルール作りなどのテーマにおいて  
多くの企業・団体と連携し、共に課題を解決していける枠組みが必要

「生成AI」をテーマに日本の産業界をつなぐ団体を設立し  
国や公的機関への提言なども行っていくことで  
一部の生成AI先進企業だけではなく、日本全体の産業競争力を高めていきたい

## 2024年1月、一般社団法人Generative AI Japan設立

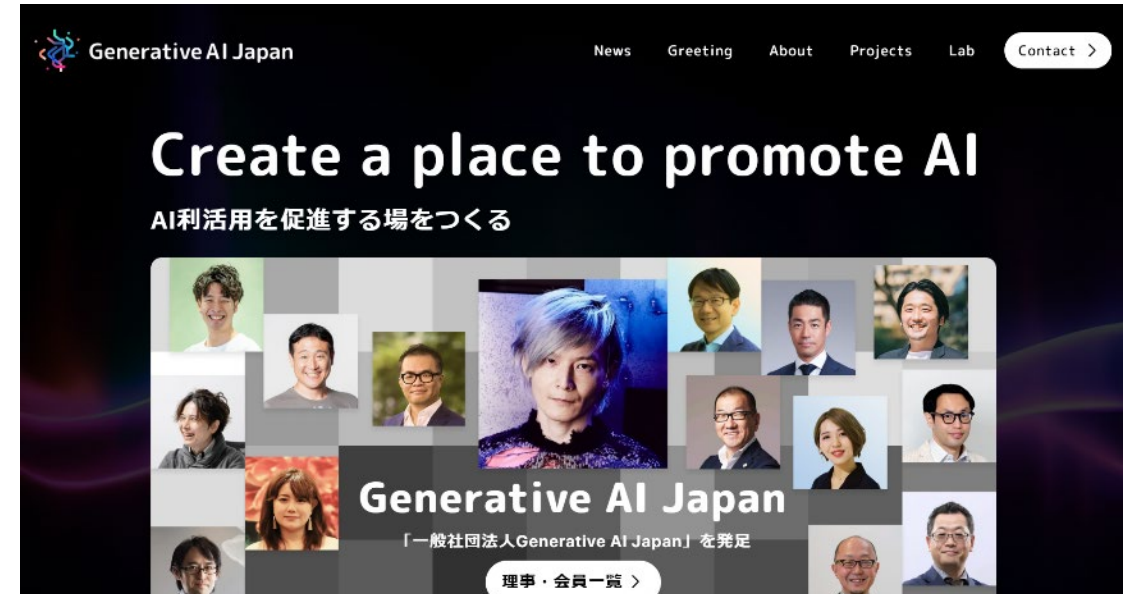
### Generative AI Japan 会員企業



各業界を代表する企業が本協会の目的・意義に共感し、下記の企業を含め70社を超える申し込み企業が参画。  
(50音順、3/31時点)



## 一般社団法人 Generative AI Japan 始動



応募期間 7月28日[Mon] ~ 10月10日[Fri] 締切 10月10日[Fri] 18:00



Japan Generative AI Award  
生成AI大賞2025

最終プレゼン・表彰式  
12月11日[Thu] 16:00-

<http://generativeaijapan.or.jp/>

# AIを価値につなげるための考え方

AIをどう社会的な価値につなげていくのか、AIの構造的な特徴をおさえておくことがそのヒントになる。

## 新しい社会の姿としてのSociety5.0

AIの社会実装を通すことで、  
オンラインとオフラインがつながりはじめている

産業革命/Industrial

情報革命/Information

知能革命/Intelligence

これまでの情報社会(4.0)



内閣府作成

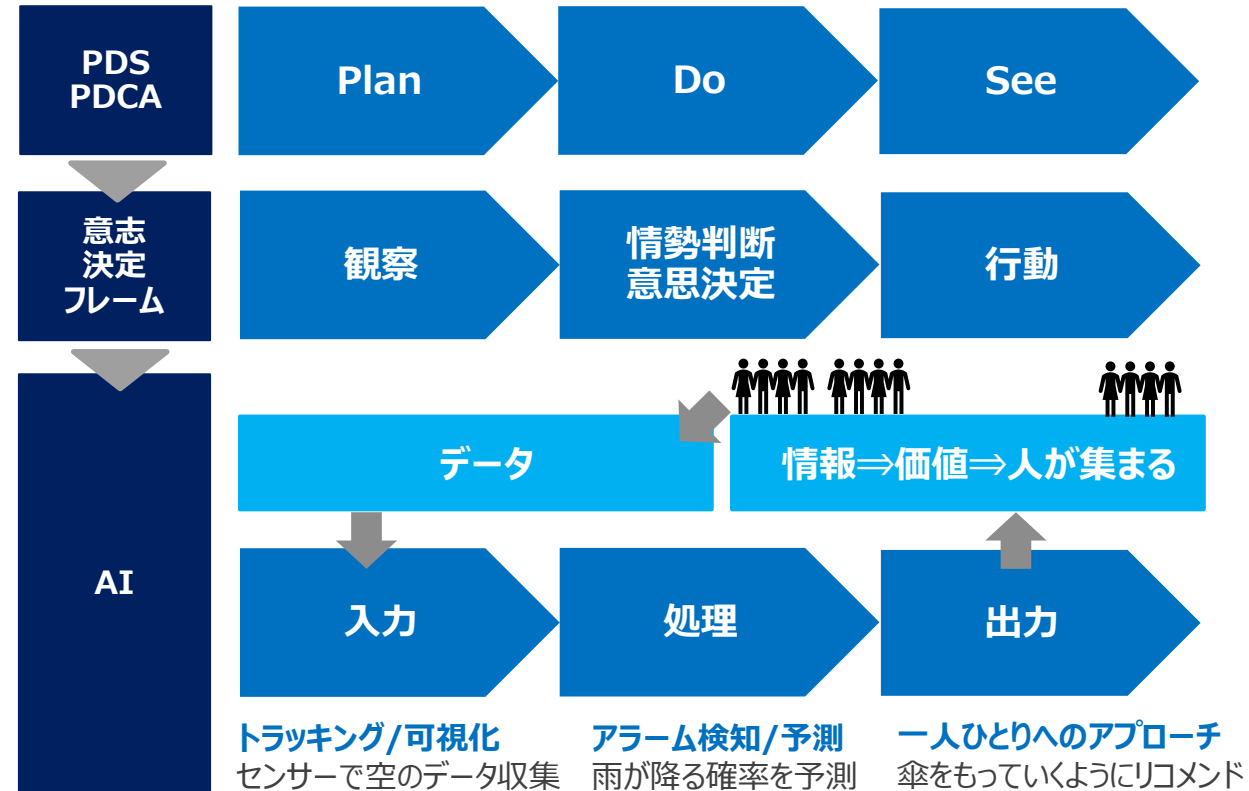
Society 5.0



内閣府 [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)  
[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/society5\\_0.pdf](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf) より

## AIの構造

「入力」「処理」「出力」というプロセスを通して、  
AIは価値を生み出す構造がある





# ベネッセグループにおける事例

一人ひとりの学びの質を高めるために、技術変遷をとらえながら、サービス化を進めている。

2023/07～

安心・安全を意識しながらの  
サービス提供開始



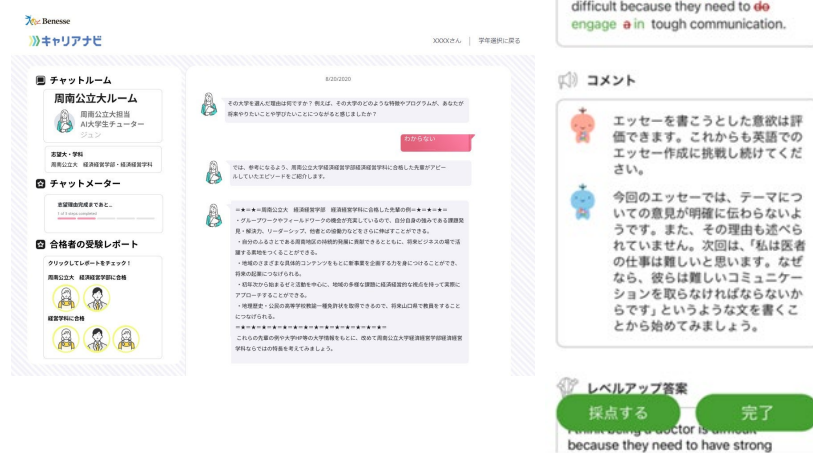
2024/03～

利用データの拡張



2025～

一人ひとりの力をひきだす  
サービス価値拡大



保護者と子どものニーズに合わせ、  
セキュリティやリスク対応を行い、  
アイデアの切り口やヒントを提供

指導ノウハウ・コンテンツを組み  
合わせ、教科の学びや学習法  
相談に役立ちを拡張

パーソナライズと、マルチモーダル対応  
により、サービス価値の拡大

# 生成AIを活用したサービス事例

子どもの興味を元に、アイデアやテーマを見つけることができる、小学生親子向け「自由研究お助けAI」のサービスリリース。



2023年7月25日サービス開始予定

※進研ゼミ会員以外の方でも、PC・スマホなどでの利用が可能

- ① 答えを教えるのではなく、考える力を養うAIキャラクターによるナビゲーション
- ② 小学生の利用に配慮した安心・安全な設計
- ③ 生成AIの使い方、ルールといった、情報リテラシーを学ぶための動画解説

夏休み期間の7/25～9/11に提供(予定)

Step1

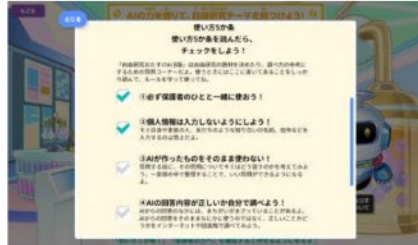
保護者による利用承認



保護者の電話番号やメールアドレス  
パスワードなどを入力し、ログイン認証

Step2

最初に情報リテラシーを学ぶ



AIキャラクターに質問する前に  
有識者監修「使い方の5か条」を学ぶ

Step3

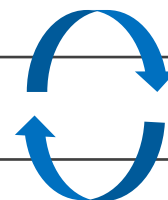
生成AIとやり取りを行う



自由研究のやり取りに  
子どもが集中できるUI/UX

実現したいこと

答えを教えるのではなく、  
考える力を養うという、  
サービス



実現したいことを具体する  
ための実装面の工夫

答えを教えず、やりとり  
ができる仕組みをつくる

実現したい価値

学齢などの発達段階

コミュニケーション反応

AIコントロール範囲増減

利用方法の説明増減

技術面での機能増減

# 生成AIの仕組みの具体例

「入力」と「出力」でつくりたい具体を考える。「処理」の強みを考える。

## 商品のメッセージは何か

- ① 答えを教えるのではなく、考える力を養うAIキャラクターによるナビゲーション
- ② 小学生の利用に配慮した安心・安全な設計
- ③ 生成AIの使い方、ルールといった、情報リテラシーを学ぶための動画解説



## 何をするか

自由研究テーマ  
を考えて提案する

自由研究の理科系テーマ  
でおすすめは？

## 何をしないか

答えを教えない  
変な質問に答えない

読書感想文を書いて

処理の工夫（＝優位性）

「虫の観察」等、身近に観  
察できるテーマを提案

読書感想文は書けないよ

出力されるものが、顧客の期待値を超える、役立つものが  
出力されるものに、リスクがないか

入力

処理

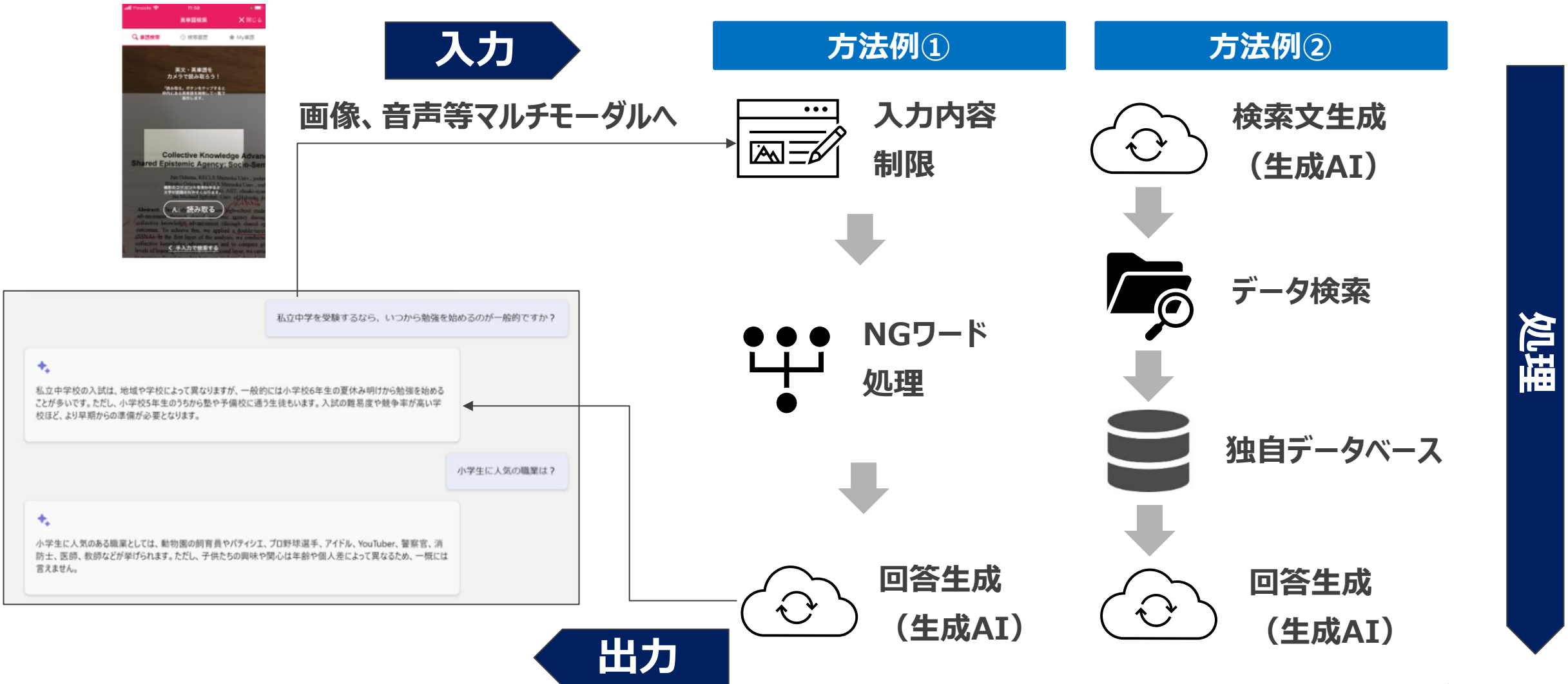
出力



# 生成AIの仕組みのポイント

実現したいことを具体化するために、プロセスを明らかにして、工夫をすることがポイント。

⇒ インタラクティブなAIとして、生成AIを利用した、タスク指示ができる仕組みが、今後さらに拡大していく見立て。





# トレンドと注目ポイント

生成AI活用のこれからの注目ポイント。

## トレンド

ガバナンスをつくり、自社データを活用して、生成AIを事業に活かす動きが進む

### トピック



#### 自社データ活用

RAGなどにより、独自データを活用した動きが進む



#### マルチモーダル

テキスト、画像、音声、動画と基盤モデルがマルチモーダルに拡大



#### ガイドライン整備

国内ガイドライン整備が進み、企業毎の規約・ガイドライン整備も進む

### 今後のポイント

業界特化型SLMなど、独自データの活用はデータ整備とともに拡大を見込む

基盤モデルの特性に応じて選択する時代へ。ロボット向け基盤モデル進化や、AnalyticsとAI技術の融合も進展

責任あるAIなど共通の考え方、ルール、プロトコルなど、継続的に活動していくためのさらなる仕組みづくりが重要化

## 2025年の注目ポイント

AI技術の進化がさらに進み、それを活かす、データと仕組み、そして人の力が重要になる

AI-Readyなデータ

マルチAIエージェント

AIガードレール

クエスティブィティ  
Questivity

# 利用データ拡張によるサービス進化

- 55年の指導ノウハウ・コンテンツと生成AIを組み合わせ、「教科質問」「学習法相談」を提供
- これまでの「確実に疑問解消できる」人の指導に加え、24時間「いつでも聞ける」質問サービスの強化

## チャレンジ AI学習コーチ



生成AI特別部門賞

2024年3月末（4月号）～サービス開始

年間180万件以上の、  
会員の質問や、疑問分析に基づき、  
人間的なやり取りの中で、疑問解消へ

- ① 教科学習についての疑問や学習法の相談を、  
いつでも何度でも※相談できる。
- ② 質問することが難しい小学生でも、AIがうまく  
聞き返しながら適切な解説に誘導してくれる。
- ③ 解決できない場合は、進研ゼミスタッフ（人）が  
答える質問サービスへ連携し、確実に解消できる。

※生成AIを使用した機能は、1日、1か月の利用回数に限りがあります。

# エージェント技術の概要

主な技術の比較。

## RPA

定義されたタスクを自動実行

## チャット型シンプル生成AI

指示された内容に沿ってテキスト等を生成

## AIエージェント

環境や条件を踏まえて、自律的に目的を達成するAI

## マルチAIエージェント

複数エージェントが協調しながらタスク遂行するAI

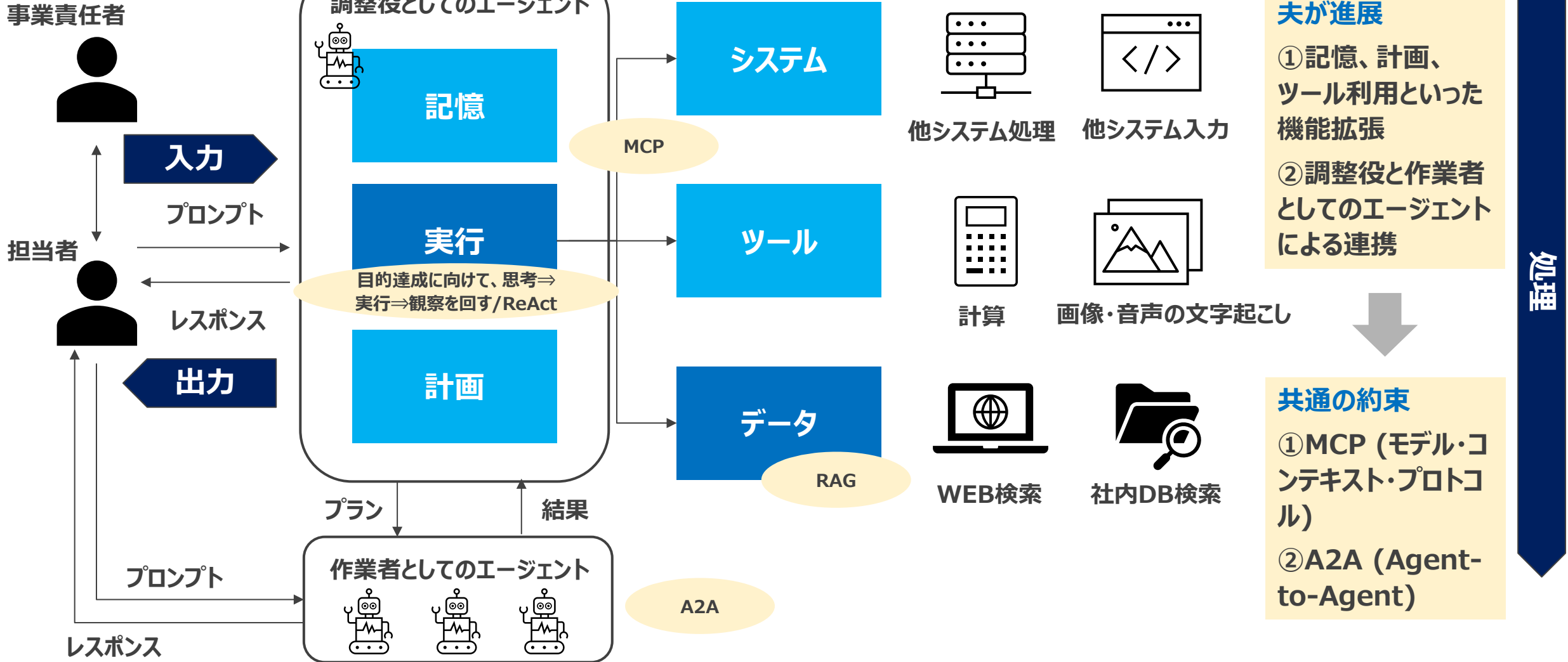
# AIエージェント導入における思考法

AIエージェントを導入する際の思考法。

責任分担の度合い

手順の固定度合い

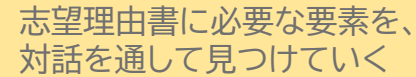
連携先の広がり度合い



処理



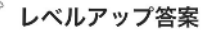
# キャリアナビ



対話の中で、志望校の先輩の例を適宜提示  
参考にしながら、自分ならではのエピソードを考える

各生徒の記載内容に応じた論理・構成面のフィードバック

解答者はA2レベル  
内容は「パイロット」



I think being a pilot is difficult. First, pilots need to be strong in the air and require extensive training. Sometimes, accidents happen, making it very dangerous. Therefore, being a pilot is a challenging and demanding profession.

解答者はB1レベル  
内容は「医者」

レベルアップ 日本

I think being a doctor is a difficult job because they need to have strong communication skills. Additionally, doctors require extensive knowledge and continuous learning, along with the ability to effectively communicate with patients. Therefore, I believe that being a doctor is both a challenging and crucial profession.

# セキュリティ・ガバナンスのポイント

AIエージェント活用におけるセキュリティ・ガバナンスの強化ポイント。



# これからの時代のとらえ

AIをうまく活用し、一人ひとりのもっている力をひきだしながら、共創して、課題と向き合う時代へ。

## 変化の方向性

社会変化のなかで、教育のありかた自体も問われている

### 変化

### 今後のポイント



#### 社会の変化

地球環境や人口動態変化  
と複合的な構造課題発生

価値ある問いを立てながら、  
対話・共創・実践が鍵



#### 教育の変化

生きる力を育む、主体的・  
対話的で深い学びの進化

一人ひとりのもっている力  
をひきだす学びの重要性  
拡大



#### 技術の変化

AI技術の進化と活用差の  
拡大

リスクを踏まえつつ、技術  
をうまく活用できるかで、  
できることの差が拡大

## 教育における生成AI活用のポイント

一人ひとりの力をひきだすためにAIを有用に活用する

### エンパワー

一人ひとりの力をひきだす

### 包摂

取り残されず有用性を享受

### ガードレール

安心・安全のための対策

# Questivity クエストィビティ

多様な意見を把握し、問いを立て、自分の考えをつくりながら、対話・共創・実践する、マインドセットがさらに重要になる見立て。

## AI活用が前提のキャリア・働き方

「価値ある問いを立て、前進すること」  
が重要とされる社会が訪れる

大量消費・大量生産  
を主流とする時代

個々の役割と  
知識習得型の修練が重要視

「価値ある問いを立て、前進すること」  
を重要視

## 必要なマインド

様々な課題に向き合いながら、  
技術革新を社会価値につなげる

問いを立てる力

技術革新の進展

ELSI：倫理的・法的・社会的課題

社会実装による価値創造

多様な意見の把握  
対話・共創・実践

## スキルセットの変化

急激な産業構造の転換に対応するた  
めのデジタルスキル・リテラシー

Why (DXの背景)

What (DXで活用されるデータ・技術)

How (データ・技術の利活用)

マインド・スタンス

社会変化の中で新たな価値を生み出すために必  
要な意識・姿勢・行動を定義

「デジタルスキル標準ver.1.2」  
([https://www.ipa.go.jp/jinzai/skill-standard/dss/about\\_dss-l.html#202308rev](https://www.ipa.go.jp/jinzai/skill-standard/dss/about_dss-l.html#202308rev) より)



# Appendix